

麦の適期播種に向けて

平成30年11月8日
京築普及指導センター
J A 福岡 京築

1 はじめに

間もなく麦の播種適期です。10月は降水量が少なくほ場が乾燥しているため、早急に播種準備の排水対策（周囲溝施工など）や酸度矯正（石灰質資材施用など）を実施し、適期播種出来るように努めましょう。

なお、気象庁の1か月予報(11月1日発表)では、向こう1か月は気温が平年より高く、降水量は平年並みとの予想です。週間天気予報を参考に、適期播種に向けた作業計画を立てましょう。

2 播種準備

(1) 排水対策

麦は排水不良により発芽や生育が大きく阻害されます。暗渠排水の有無にかかわらず、サブソイラー（弾丸暗渠）、スタブルカルチを用いて、ほ場が乾かない大きな原因である硬盤の破碎を行いましょう。

あわせて、排水効果を高めるため溝掘り機で周囲溝を掘り、表面排水を徹底しましょう。

【参考】排水対策の様子



サブソイラー



スタブルカルチ



溝掘り機：プラウ式



溝掘り機：オーガ式

※ 作業のポイント：耕起は出来る限り遅くしましょう

耕起後の土壌は水を含みやすく、降雨後乾きにくくなります。

水稲後で稲株や雑草が大きくなり処理が必要な場合は、モアで刈るとよいでしょう。

(2) 酸度矯正

麦は酸性に偏った土壌では生育が悪くなります。特に大麦の適正な土壌pHは6.0~6.5と高く、pH5.0を下回ると生育が著しく抑制されます。

一方、多くのほ場では土壌pHが5.5前後で、適性値より低くなっている現状です。土壌pHを矯正し麦の生育を確保するため、**石灰資材を必ず施用しましょう。**



大麦の酸性障害発生ほ場
(丸囲み部分)



酸性障害が発生した大麦
(葉の黄化、生育抑制)

※ 石灰質資材施用量の目安

資材名	施用量(10a当り)	アルカリ度	備考
細粒苦土石灰	200kg	53%以上	散布しやすい
ミネラルG	160kg	40%	後作が水稻の場合に有効
生石灰	100kg	90%	速効的に pH を上げる

3 播種適期

播種適期は下表のとおりです。早播きは3月下旬～4月上旬の低温や晩霜により凍霜害を受け、減収・品質低下を招く可能性が高くなるので避けましょう。

また、**播種深度は2～3cm**としましょう(出芽率の向上と除草剤による薬害防止のため)。

(10a 当たり)

麦種	品種	播種適期	播種量	基肥
ビール大麦	しゅんれい	11月20日～ 12月5日	7～8kg	ベスト化成444 40kg (はるしずくのみ35kg)
大粒大麦	はるしずく はるか二条			
小麦	チクゴイズミ ちくしW2号	11月15日～30日	6～7kg	

※ 種子消毒: 種子1kgに対し、トリフミン水和剤5gを粉衣(斑葉病、網斑病、黒穂病対策)

※ 作業のポイント

- ・事前に種子消毒や播種機の準備をしましょう
- ・小麦と大麦など複数品種を作付している場合や、平成31年産から作付する品種を変更する場合は、播種機に残った前年産の種子の清掃を念入りに行いましょう。
- ・播種機の播種量の設定は、播き始めに確認を行いましょう。

4 雑草対策

下表を参考に、播種後の除草剤を散布しましょう。

なお、播種前に残存雑草が多い場合は、ラウンドアップマックスロードの散布を検討してください(麦の出芽後では、使用できません)。

	除草剤名	処理時期	使用量(10a 当たり)
播種前	ラウンドアップ マックスロード	耕起・播種前又は播種後出芽前 (雑草茎葉処理)	200～500ml (散布水量 50～100ℓ)
粒 剤	リベレーターG	播種後～麦2葉期まで (雑草発生前～イネ科雑草1葉期まで)	4～5 kg
	サターンバアロ粒剤	播種後～麦4葉期まで スズメノテッポウ1.5葉期まで	3～5 kg
液 剤	リベレーターフロアブル	播種後～麦3葉期まで (雑草発生前～イネ科雑草1葉期まで)	60～80ml (散布水量 100ℓ)
	サターンバアロ乳剤	播種直後～麦出芽前	500～750ml (散布水量 70～100ℓ)

※ 作業のポイント: **丁寧な播種作業は除草剤の効果を高めることにつながります。**

播種時の碎土や整地を丁寧にして土塊を細かくすることや、土が乾燥している場合には散布水量を多くすることで、除草剤の処理層がきちんと形成され、効果が高まります。

麦の遅播きおよび中間管理について

平成30年12月6日
京築普及指導センター
J A 福 岡 京 築

1 はじめに

10月、11月は降雨が少なくほ場が乾燥していたため、播種は順調に進み、全体の約7割のほ場で適期に播種が完了したようです。まだ播種が終わっていないほ場では、ほ場が乾き次第すぐに播種しましょう。

播種以降、平年よりも気温が高い状態が続いており、今後も暖冬傾向が続くと予想されます。**特に早播きのほ場で麦の生育が早いところでは、12月下旬（分けつ始期）以降、1回目の麦踏みを行きましょう。**

2 遅播き時の注意点

これから播種するほ場は、下表を参考に播種量を増やし生育量の確保に努めましょう。

麦種	品種	播種量	遅播き限界	備考
ビール大麦	しゅんれい	9~11kg	12月20日	・小麦、大麦両方を栽培する場合は、 小麦の播種を優先 しましょう。 ・出芽が遅れないよう、播種深度は必ず2~3cmとしましょう。 ※深播き厳禁
大粒大麦	はるしずく はるか二条			
小麦	チクゴイズミ ちくしW2号	8~10kg	12月15日	

3 雑草対策

遅播きの場合や、降雨などにより播種後に初期除草剤を散布していない場合は、下表を参考に散布してください（麦の葉齢に注意しましょう）。

	除草剤名	処理時期	使用量（10a 当たり）
粒 剤	リベレーターG	播種後～麦2葉期まで イネ科雑草1葉期まで	4~5kg
	サターンバアロ粒剤	播種後～麦4葉期まで スズメノテッポウ1.5葉期まで	3~5kg
液 剤	リベレーターフロアブル	播種後～麦3葉期まで イネ科雑草1葉期まで	60~80ml （散布水量100ℓ）
	サターンバアロ乳剤	播種直後～麦出芽前	500~750ml （散布水量70~100ℓ）

4 中間管理

適期播種ほ場では、12月下旬（分けつ始期）以降、**晴天が続き土壌が乾燥している日に麦踏み**を実施しましょう（土壌が湿っている場合は麦を傷めるので実施しないこと）。

麦踏みは分けつ促進、耐寒性強化、倒伏防止、早期茎立ち抑制により収量・品質を安定させるための重要な作業です。

特に早播きや大豆後作で生育旺盛なほ場は必ず実施してください。

※ その他の中間管理作業（土入れ、中期除草剤散布）については、次回（1月上旬発行）の「麦管理情報No. 3」を参考にしてください。